時津町は「家読」を推進しています

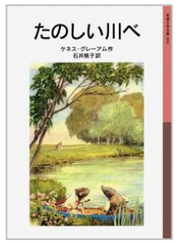
たまには テレビをけして

高学年向け　２０２５年　春号

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。
難しいルールは要りません。
家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「たのしい川べ」

ケネス・グレーアム/作 石井 桃子/訳
（岩波書店）

春のある日、川べに住むモグラは、大掃除にあきて外に飛び出します。春の素晴らしい陽気を感じながら歩いていくと、川ネズミからボートに乗るようさそわれました。ステキな自然の中で起きる動物たちの小さな事件。特に、ヒキガエルが巻き起こす事件では、手に汗握る展開が待っていますよ！お話にぴったりな、優しいさし絵も一緒に楽しめる作品です。

「リスたちの行進」

堀 直子/作 平澤 朋子/絵（新日本出版社）

小学４年生の由森は、引っ越してくるまで、タイワンリスが害獣だということを知りませんでした。ある日、友だちのおことちゃんがタイワンリスの「ももちゃん」を家で保護していることを知り、外来種のことを調べ始めます。ももちゃんが元気になっても、山に放すことを禁止されているし、役所に持っていけば処分されてしまう。由森と友だちは、人間とタイワンリスの共存のために立ち上がりました。

「大人も知らない？ 日本文化のなぞ事典」

日本文化のなぞ研究会/編　いぢち ひろゆき/イラスト
藤井 青銅/監修（マイクロマガジン社）

「花見はなぜ桜なの？」「なぜ、こいのぼりを飾るの？」春の行事にかかせないお花見や端午の節句など、日本にまつわる文化やしきたりの「なぜ？」について教えてくれますよ。他にも日本語や迷信など、きっと、大人も知らないうんちくがたくさん。家族で一緒に読んで日本にくわしくなろう♪

「ボタ山であそんだころ」

石川 えりこ/作・絵（福音館書店）

「わたし」の生まれた町には、炭坑がありました。家族は炭坑の仕事をし、家でご飯を作るのにも、お風呂をわかすのにも、石炭を燃料として使っていました。3年生になり、「わたし」はけいこちゃんと一緒にボタ山に登ったり、どろの川で遊んだりしていたけれど…。ある日、とつぜんけいこちゃんが学校に来なくなりました。どうして？

今から約60年前の昭和４０年ごろ福岡県の山野炭坑で起きたおはなし。

「わたしたちのケーキのわけかた」

キム・ヒョウン/作 おおたけ きよみ/訳
（偕成社）

５人もきょうだいがいると、ひとりじめすることはできません。ケーキだって、リンゴだって、ミルクだって、なんでも5で分けっこします。分けられるものはいいけれど、一つしかないおもちゃや、扇風機はどうしたらいいのかな？

この本には、みんなが満足するためのヒントがのっています。分けっこって、なんだか心があったかい。

「いいわけはつづくよどこまでも」

岡田 淳/作 田中 六大/絵 （偕成社）

ぼくのおじいちゃんは、とにかくすごい！なぜなら、おじいちゃんは小さい頃、でっかいクシャミで公園の桜をぜーんぶ散らしてしまったらしい。しかも、花見のお客さんを怒らせたおじいちゃんは島流しされて…。

ほかにも、おじいちゃんのびっくり話が5つ聞けちゃいますよ。

家族みんなで、おなかをかかえてわらっちゃおう♪

発行：時津町立時津図書館